

## くさつがわ 草津川放水路事業

受賞機関 国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所

### はじめに

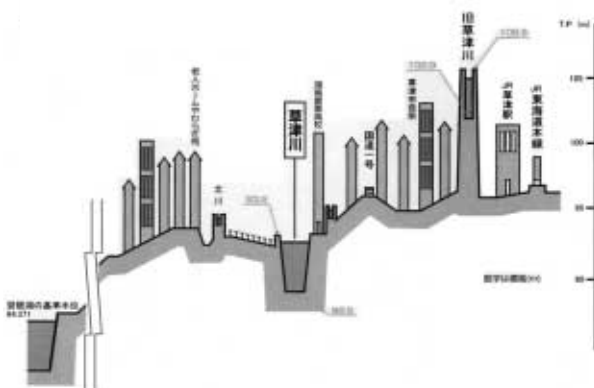
江戸時代、東海道と中仙道が交わる宿場町として発展した草津。草津川は、過去からの度重なる土砂流出と堤防の嵩上げを繰り返したことにより典型的な天井川になってしまい、川底より低いところにトンネルを掘って国道1号線・JR東海道線が通過するようになった。

この草津市街地を縦断している草津川は、洪水により周辺地域に大きな被害をもたらしてきた。近年になって、周辺地域は京阪神へのベットタウンとして人口が急増し、想定される被害額は年毎に増加してきている。

このため、草津川を平地化し市街地を水害から防御するため、琵琶湖岸から5.5kmの草津川放水路が計画された。

### 事業の概要

- 事業実施期間：昭和52年度滋賀県により着手。  
平成4年度より直轄施行となり、平成14年7月通水に至る。
- 主たる工種：掘削 1,167千 $m^3$ 、築堤 36千 $m^3$   
護岸 29千 $m^3$ 、橋梁 24橋  
樋門その他 10基  
用地補償 305億円
- 事業費：834億円



草津川横断面図



全景

### 事業の効果

|         | 旧草津川                                 | 草津川放水路  |
|---------|--------------------------------------|---|
| 流下能力    | 約150～170 $m^3/s$<br>流域50mmの降雨で警戒水位突破 | 基準地点800 $m^3/s$<br>S28.13号台風の1.7倍の降雨でも安全(255mm 434mm) |
| 降雨確率    | 1/2程度                                | 1/80  |
| 河床高さ    | 背後地より5～6m河床が高い                       | 背後地より4～5m河床が低い  |
| 川幅      | 40m～50m程度<br>(河口ほど狭くなる)              | 80m～100m  |
| 流域面積・延長 | 36 $km^2$ 7.5km                      | 48.3 $km^2$ 5.5km                                     |

### 事業実施の主な課題

- 用地補償問題：移転者100余戸 地権者850余名  
工事施工問題：市街地における大量の掘削土運搬  
技術的問題：
- ・ 落差工から新幹線橋梁までの計画・設計
  - ・ 旧草津川との分派点における落差工(7m)の設計  
(ステッププール式落差工を採用)

受賞賛助会員 (株)安部工業所、オリエンタル建設(株)、川崎重工業(株)、川田工業(株)、木原建設(株)、公成建設(株)、坂川建設(株)、(株)サクラダ、東亜建設工業(株)、ドービー建設工業(株)、日本鋼弦コンクリート(株)、日本国土開発(株)、日本車輛製造(株)、(株)富士ピー・エス、名工建設(株)